

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) の誕生

水谷 仁

(宇宙航空研究開発機構 宇宙科学本部 固体惑星研究系)

去る10月1日、わが国の宇宙開発の中核機関として独立行政法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA; Japan Aerospace Exploration Agency) が発足した。これは文部科学省宇宙科学研究所、独立行政法人航空宇宙技術研究所、特殊法人宇宙開発事業団の3つの機関をひとつに束ねた新しい組織である。新機構名に Exploration という名前が入っていることはこの機構がこれから月・惑星探査など新しい分野に挑戦しようとする意気込みを示したものと言えるだろう。

JAXA の活動は、理事長の下に置かれた4つの本部、「宇宙基幹システム本部」、「宇宙利用推進本部」、「総合技術研究本部」、「宇宙科学研究本部」に分かれて行われる。これまで宇宙科学研究所で行われていた宇宙科学研究、大学院教育、大学共同研究施設としての機能は「宇宙科学本部」に引き継がれているが、M-V ロケットの開発、打ち上げなどは「宇宙基幹システム本部」に移されている。一方、これまで宇宙開発事業団で行われていた宇宙環境利用の「科学」部分は宇宙科学研究本部に移され、旧宇宙科学研究所の守備範囲を広げるものとなっている。日本惑星科学会の会員の皆さんの関心の高い SELENE 計画はこれまで宇宙開発事業団と宇宙科学研究所の共同ミッションとして進められてきたが、人員、予算共に新機構では宇宙科学研究本部に引き継がれることになった。

新機構全体の職員数は約1800人、数の上では NASA の約1割、ESA の約半分となる大きな組織となった。したがって、これまで3機関でそれぞれ異なったやり方で推進してきた宇宙航空科学技術を新機関で融合できれば、世界に誇れる成果が必ずや生まれるであろう。一方、組織の規模が大きくなることで、もの

の進め方、考え方が官僚的になり、硬直化する恐れもあることにも常に注意を払わなければならないだろう。いずれにしても組織を動かすベースは人間であり、新機関のメンバー一人ひとりが新しい組織に対する国民の負託に答えるように努力することが、将来のわが国の宇宙航空科学分野の発展につながるであろう。今後とも日本惑星学会から新しい機関への有形、無形のご支援をお願いしたい。